

多喜二祭

2020 没後 87 周年



「転形期の人々」 挿絵 大月源二

記念のつどい

2月22日(土)

開会 14:00~16:30

小樽市民センターマリンホール

(小樽市色内2丁目)

◆ヴァイオリン演奏

多喜二がロズさんだブラームス
作曲「折ればよかった」「愛の讃歌」
「初恋」ほか

大橋理絵

お茶の水女子大学芸術学科卒

◆記念講演

「安倍政権下の教育」
前川喜平

現代教育行政研究会代表
(元文部科学省事務次官)

参加費 1,200円

小林多喜二 1903.10.13~1933.2.20

墓前祭

2月22日(土)

11:00~11:45

奥沢墓地(小樽市奥沢5丁目)

10:00に小樽駅前の
バスターミナルから
送迎バスが出ます。

(目印は多喜二祭の「のぼり旗」)



料金 500円。(往復)

■札幌からのバスも出ます。

お問い合わせ先 (株)旅システム 011-742-2260

後援 小樽市 小樽市教育委員会 北海道新聞小樽支社
朝日新聞北海道支社 毎日新聞北海道支社 読売
新聞小樽支局 小樽ジャーナル (株)旅システム



没後87周年 小樽多喜二祭 記念のつどい

記念講演

「安倍政権下の教育」

前川喜平 氏

現代教育行政研究会代表

元文部科学事務次官

■ 講演要旨

1945年の敗戦を境として、日本の国のあり方を定める憲法は、天皇主権の大日本帝国憲法から、国民主権の日本国憲法へと転換し、それに伴い日本の教育は教育勅語に基づく「国家」中心の教育から教育基本法に基づく「個人」中心の教育へと転換した。

しかし今、安倍政権において「教育再生」の名の下に、日本の教育は1945年以前へと回帰しようとしている。教育基本法の「改正」や道德の教科化などにそれは現われている。

前川喜平氏プロフィール

まえかわ・きへい 1955年奈良県生れ。

1979年東京大学法学部卒業、1979年文部省（現文部科学省）入省。大臣官房長、初等中等局長などを経て、2016年文部科学事務次官に。

2017年に退官し同年、加計学園の獣医学部新設について「行政はゆがめられた」と発言。

北海道新聞の水曜討論「あいちトリエンナーレ補助金不交付」欄に登場し、「補助金不交付の決定に至る過程で政治的な関与があったのは間違いないと思います。文化庁も政治と距離を置くという観点が希薄…」と発言。

現在、福島市と厚木市の自主夜間中学でスタッフを務めている。

著書の紹介

「面従腹背」（2018/6/27 毎日新聞出版）

「あったことをなかったことにはできない」…官僚トップの事務次官をつとめた著者がなぜ“総理の意向があった”と記された文書存在を認めたのか。「公平・公正であるべき行政が歪められた」として安倍政権下で起きた「権力私物化」の構造を糾弾する。

「前川喜平『官』を語る」（2018/7/12 宝島社）

「これからの日本 これからの教育」（寺脇研氏との共著 2017/11/8 ちくま新書）

「同調圧力」（望月衣塑子氏らとの共著 2019/6/8 角川新書）